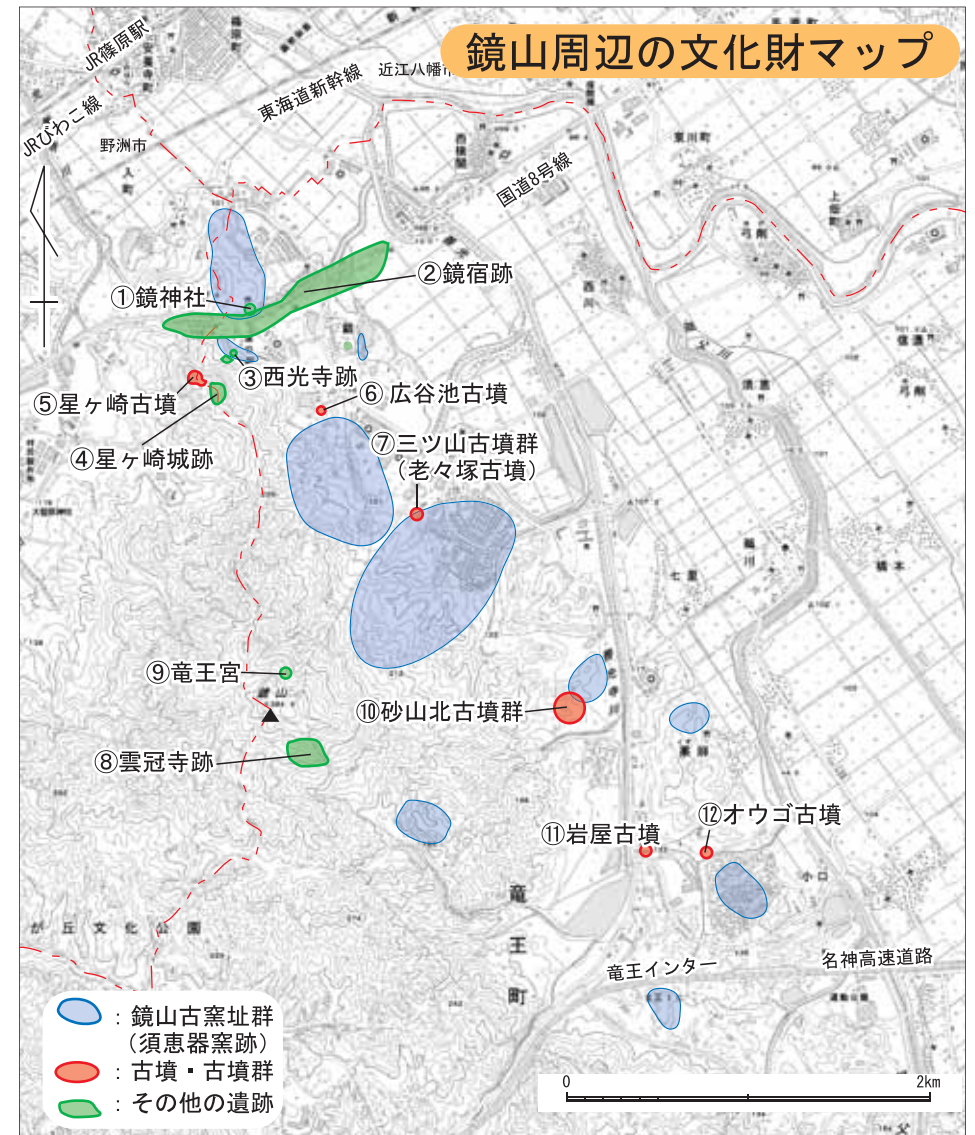


鏡山周辺の文化財



埋蔵文化財活用ブックレット4
鏡山周辺の文化財

印刷：共栄印刷株式会社

刊行：平成22年10月31日
編集：滋賀県教育委員会・竜王町教育委員会
制作・刊行：滋賀県教育委員会事務局文化財保護課
住所：〒520-8577 大津市京町四丁目1番1号
電話：077(528)4674 FAX:077(528)4956
e-mail: ma07@pref.shiga.lg.jp

滋賀県教育委員会

目次

はじめに	1
①鏡神社と鏡山古窯址群	2
②鏡宿跡	3
③西光寺跡	6
④星ヶ崎城跡	8
⑤星ヶ崎古墳	4
⑥広谷池古墳	5
⑦三ツ山古墳群(老々塚古墳)	9
⑧雲冠寺跡	9
⑨竜王宮(貴船神社)	10
⑩砂山北古墳群	11
⑪岩屋古墳	12
⑫オウゴ古墳	13

はじめに

滋賀県南部、竜王町と野洲市との境に位置する「鏡山」は、その美しい姿から、古来より街道(古代, 中世東山道・近世中山道)を行き交う多くの人々の目にとまり、古今和歌集など多くの歌に詠まれた近江名山の一つです。また、山麓や街道沿いには多くの遺跡や文化財があり、豊かな自然とあいまって、すばらしい風景を彩る材料となり、今日の景観を形づくるにいたっています。

この鏡山山麓一帯は、交通・軍事の要衝として、先進的な文化や技術をいち早く取り入れ、地域発展の基礎となったことが古墳や出土した遺物などから知ることができます。また、人々の信仰や争いのうつりかわりを、山頂付近の磐座や山寺(山岳寺院)跡、城跡などの遺構からうかがうことができます。

今回ご紹介します鏡山周辺の主な遺跡や文化財の多くは、現在にいたるまで地域の人々により維持管理され、大切に守られてきた歴史資産です。このような文化や歴史が育まれてきたフィールドを、今一度、鏡山や里(街道)のしずかなたたずまいなど、周辺の景色を楽しみながら散策していただければと思います。

本埋蔵文化財活用ブックレットは、竜王町教育委員会と滋賀県教育委員会が協働して原稿を作成し、滋賀県教育委員会が国庫補助金(埋蔵文化財保存活用整備事業)を受けて刊行した。

表紙写真：老々塚古墳 目次・1ページ写真：鏡山遠景

本ブックレットの散策マップについては、国土地理院発行の地形図(2万5千分の1野洲)を元図として使用した。

かがみ かがみやま こようしやくん
鏡神社と鏡山古窯址群

竜王町（蒲生郡）と野洲市の境に位置する鏡山一帯には、古墳時代後期（約 1500 年前）から飛鳥・奈良時代（約 1300 年前）にわたって焼かれた焼物「須恵器」の窯跡が数多く存在します。現在確認されている須恵器窯跡の分布状況（鏡山古窯址群）から、かつてはこの鏡山の麓が須恵器の一大生産地（推定 100 基以上存在）であったことがうかがえます。



鏡山古窯址群から見つかった須恵器

飛鳥時代から奈良時代にかけて編纂された『日本書紀』には、「近江国の鏡村の谷の陶人は、天日槍の従人なり」という天日槍の伝承として書かれています。ここでいう「陶」は「須恵」と同じ器の意味を表すものであり、鏡山山麓で発見されている須恵器の窯跡や、近くに「須恵」という地名が存在することから、この鏡地域周辺と深い関係がありそうです。



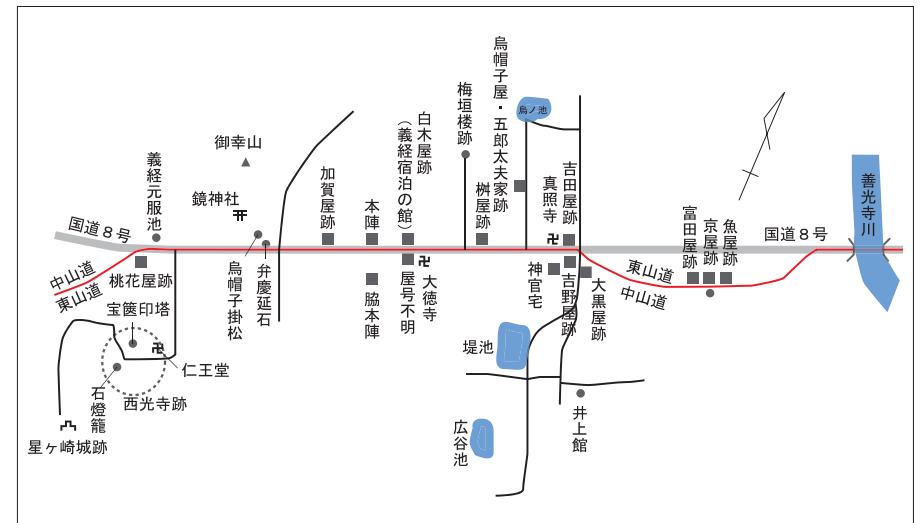
鏡神社本殿（重要文化財）

国道 8 号線沿いにある鏡神社には、朝鮮半島の新羅国の王子である天日槍がこの鏡地域周辺にやって来て、半島で活躍していた須恵器の製作技術者であるその従人を鏡山周辺に住まわせ、製陶業 = 「須恵器」づくりをおこし発展させたことから、鏡の里（ムラ）の人たちが、金属・製陶業の創始者として天日槍をたたえ、この社に祭神としてまつたことが伝えられています。

鏡神社の本殿は、南北朝時代（約 650 年前）の建物様式（三間社流造柿葺）をとどめており、重要文化財に指定されています。

かがみしやく
鏡宿跡

野洲市出町から竜王町鏡にかけての街道（国道 8 号線）沿いは、かつて東山道の宿駅として平安時代末期から室町時代にかけてにぎわいましたが、江戸時代に入り守山宿と武佐宿が中山道の宿駅として定められたために、鏡宿は間の宿となり衰退しました。しかし、本陣と脇本陣が置かれていたことから、江戸や京都へ向かう多くの皇族や武家（藩）の関係者がここで休まれたことが記録に残っています。また、現在の鏡神社には、京から奥州平泉へと向かう源義経（牛若丸）が、道中この鏡宿にて元服したと伝えられており、ゆかりの品々が伝承されています。



鏡宿周辺 概要図

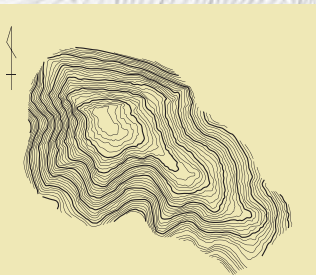
鏡宿・星ヶ崎城跡周辺マップ



②中山道と鏡宿跡の現況
鏡宿付近の中山道は大半が国道8号線と重なっておりますが、当時の面影も部分的に残っています。



ひろたにいけ
⑥広谷池古墳
鏡山より北側に延びる丘陵上に造られた6世紀後半頃の円墳(直径約12m)です。開口部から横穴式石室の内部をみることができます。



⑤星ヶ崎古墳 0 10m
鏡山北端の尾根の頂上部に造られた古墳です。遺物は確認されておらず、造られた時期など詳しいことは不明です。

さいこうじ 西光寺跡

西光寺は、弘仁9年(818)、伝教大師最澄が中興し、嵯峨天皇の勅願所となって僧坊300を開くほどに発展したとされます。その後、戦国時代末期の元龜2年(1571)に織田信長の兵火にあい焼失したと伝わります。

この寺院は東山道(近世中山道)鏡宿に近く、寺院跡と考えられる山麓の平坦地には鎌倉時代の宝篋印塔(重要文化財)と室町時代の石燈籠(重要文化財)が残されています。また、仁王堂には室町時代初期の金剛力士像(花崗岩製)が安置されています。

宝篋印塔は、二段の基壇の上に孔雀が向かい合う格狭間の装飾を彫った基礎を置き、塔身、笠、相輪部を積み重ねたもので、相輪の一部を欠きませんが、高さ2.1mに及ぶ大型のもの(花崗岩製)です。塔身の四隅にみられる「ふくろう」の彫刻は、この塔の特色といえます。

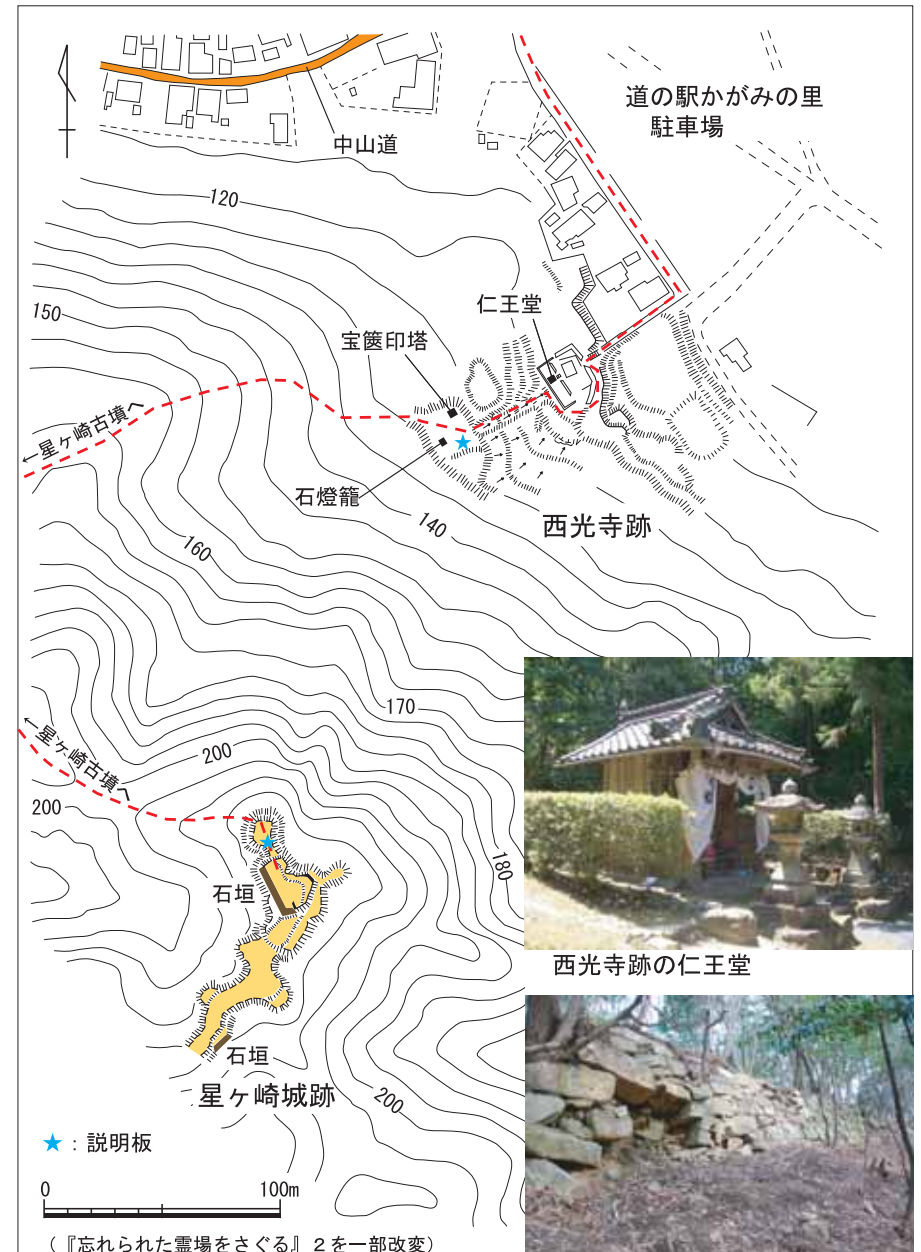
また、石燈籠(総高2.8m)は、火袋の四面に四仏が彫られており、八角柱の竿の一面には応永28年(1421)の記年銘がみられます。



宝篋印塔(重要文化財)



石燈籠(重要文化財)



星ヶ崎城跡の縄張図と西光寺跡



西光寺跡の仁王堂



星ヶ崎城跡の石垣

④星ヶ崎城跡

鏡山と御幸山の間を東西に通る東山道と鏡宿駅を眼下に抑える軍事上重要な位置に築城されています。近江源氏佐々木氏の一族である鏡久綱によって築かれた城と伝えられます。

城は、主郭と推測される平坦部とその周囲の小規模な郭で構成されており、主郭の一部には石垣も認められます。街道交通の見張りや軍事的緊張の高まった有事の際に立てこもる砦であったと考えられます。

一方、鏡集落内には、鏡久綱の居館とされる井上館跡があります。この城は、一辺約23mの方形を呈し、北西と南東側の一部に出入り口を設けており、周囲には高さ2.5mの土塁と濠がめぐっています。



星ヶ崎城跡から見た鏡宿周辺（手前の集落）

⑦三ツ山古墳群（老々塚古墳）

三ツ山古墳群は、鏡山から北側に延びる丘陵上に造られた6世紀中頃～7世紀前半頃の古墳群です。

須恵器の生産地に古墳群が造られていることから、埋葬された人々は、須恵器の生産に関与した人たちだったかもしれません。

この中の代表的な古墳である老々塚古墳は、本来埋まっているはずの石室の大部分が地表に露出しており、まるで飛鳥の石舞台古墳のようになっています。ここからは竜をデザインした金銅製の太刀飾りが出土しました。



老々塚古墳の石室

⑧雲冠寺跡

鏡山（標高384.6m）の南東中腹（標高290～330m）に建立された山岳寺院跡です。『東大寺三鋼紀行』によると、養老2年（718）に開かれたとあり、また、竜王町山面仏巖寺所蔵『箱石山雲冠寺御縁起略抄』には、推古天皇の勅願所として聖徳太子が創建し、最澄により再興され、平安時代末に牟礼山法満寺との争いで焼失、その後僧正円上人によって再建され、元亀2年（1571）、織田信長の兵火により再び焼失し廃寺となったという記録が残っています。

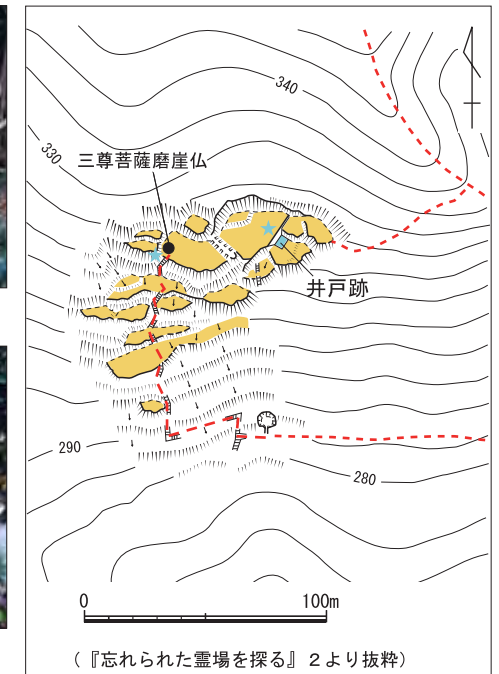
現在、寺跡は雑壇状に造成された平坦地や石垣、磨崖仏、井戸跡などがわずかに残るだけとなっています。磨崖仏には、高さ約4.5m、幅約2mの岩に彫られた三尊菩薩像や、通称「稚児谷の地蔵」と呼ばれる地蔵菩薩像があります。この地蔵菩薩像は法満寺との争いの際に犠牲となった罪のない稚児（子供）の霊をとむらうため里人たちが、稚児の遺体をおいたこの谷間の巨岩に地蔵菩薩を彫ったものと伝えられています。



雲冠寺跡の三尊菩薩磨崖仏



雲冠寺跡の井戸



雲冠寺跡 概略図

すなやまきた ⑩砂山北古墳群

善光寺川の左岸にあり、円墳と考えられる古墳が南北各支群に3基、合計6基確認されています。また、北西の丘陵上にも、古墳群(岩屋古墳群)の広がりが確認されています。



砂山北古墳群 (I支群3号墳)

いわや 岩屋古墳

岩屋古墳は、古墳時代後期、鏡山南麓の八重谷を通り、甲賀へ抜ける交通路沿いに築かれた全長 42 m の前方後円墳です。後円部には、南側に開口する横穴式石室が見られます。石室の奥壁に不動明王が彫られており、「岩屋のお不動さん」として信仰されています。



岩屋古墳の墳丘測量図



岩屋古墳の石室



オウゴ古墳

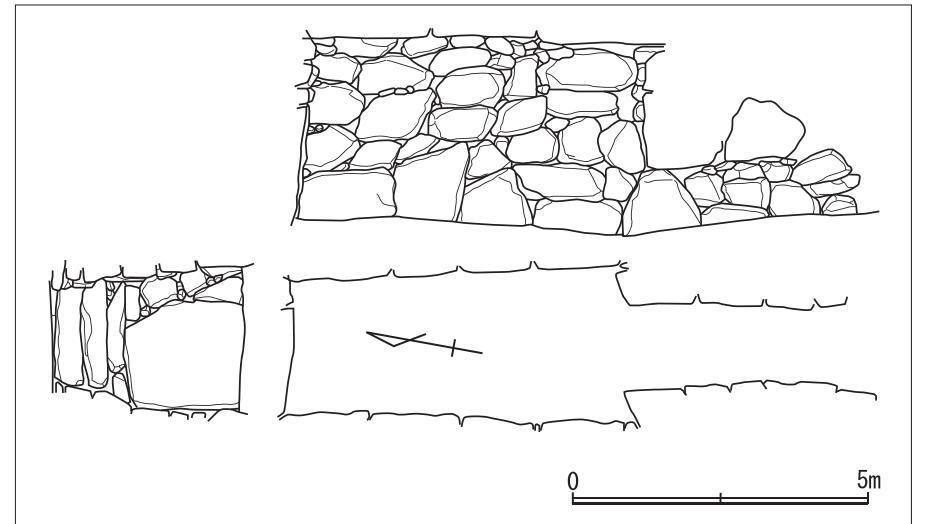
岩屋古墳の東約 500m にある方墳です。大型（全長約 10m）の横穴式石室をもち、岩屋古墳に続く有力者の墓である可能性が考えられます。古墳の時期は石室構造などから 6 世紀後半とみられます。



オウゴ古墳墳丘測量図



オウゴ古墳



オウゴ古墳の石室測量図